



## 空手でつなぐ世界の絆

### 聖心会インド親善空手道選手権大会 与板ジャパン2014

主催／国際糸東流空手道聖心会

主管／世界国際糸東流空手道聖心会 与板空手道会

YSI 永羅飛今町空手道会



空手を通してインドとの国際交流を深める為、賛同した空手団体 10 団体と共に記念すべきインド親善大会を国際糸東流聖心会が、歴史ある町与板に於いて「聖心会インド親善空手道選手権」を開催、盛大に行われ、大成功を納めた。「聖心会インド親善空手道選手権大会」の 1 シーン



### インド本部との交流大会

以前から空手道の国際大会を開くことが念願だったが、今大会の 3 か月前にインド本部とやりとりをした際、インド本部のプレミット・セン氏が是非日本の子供とインドの子供が空手で交流できる場を設けて欲しいと、話が進んだ。

早速母体である与板空手道会の育成会に集まってもらい、育成会の応援のもと、10月12日に日程を決める。わずか3か月後に開催ということで、その日から育成会と連日連夜、打ち合わせや準備が始まった。大会進行部長の山川智之先生、審判長の佐藤政和先生との打ち合わせを密に行った。新潟県連に報告をした際、海外からの招待試合は、普通は5、6年かけて準備が必要と言われるが、その日から前進あるのみで準備にと走り出した。県内の空手団体に大会案内を出したところ、

佐渡空友会、真和会、小千谷空手道、村上空手道研究会、見附空手道会、白鷹会、加茂農林高校、長岡技術科学大学空手部の、8団体からの参加申し込みがあり、のべ240名となる。

佐渡や村上と、遠距離にもかかわらず早々に返事が届き感謝する。

大会当日与板町の人達が氣勢かけつけ、町民の応援を背に大会が盛り上がる。

見附太鼓の勇壮な連打に始まり、交流試合の間に、インドの子供達はインド4地方の踊りを披露、大会会長エラヒと大会副会長、飛田野和貴、指導員河村清、坂口真一による、日本の居合道を披露した。